

+

2022年

2月第1・2週の主日礼拝説教要約

・ 2月 6日：ヨハネ福音書 3：16-21.

「信じる者の命」

・ 2月13日：ヨハネ福音書 4：43-54.

「王の役人なれど」

衣笠病院教会 牧師 宮原晃一郎

説教《信じる者の命》

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

ヨハネ福音書の3章16節の言葉は、旧新約聖書を通して記された言葉の中では最も恵み深い言葉です。旧約聖書だけに限定すると、詩編の23篇の言葉にこれに近い感動を覚える方もいるでしょう。

ヨハネ福音書のこの言葉は「世を愛された」神の無差別の愛を、先ず全ての読者に語りかけている点で、必ずしも信仰の有無を問いません。キリスト教徒ではなかった頃の私は、この言葉によって救われました。

さて、例えば黄金律(「人々にしてほしいと思うことは、人々にもしてあげなさい。」マタイ福音書7:12)といわれるものは、こちらにも信仰の有無は問いませんが、この言葉が「神」から出たのものか否かは問われずに流布しています。「働かざる者、食うべからず。」と同様に。こちらは、神ではない人間パウロが、テサロニケ教会の怠け者らに対して与えた警告の言葉でした。別段、聖書の内容に則った思想でも何でもなく、この世で独り歩きをしています。

神がその独り子をお与えになった時代とは西暦1世紀、不信仰が蔓延しはじめた時代で、ローマ皇帝は自らを神格化し、信教の自由の原則とは裏腹に伝統宗教の切り崩しに努めておりました。聖書の神もその民も相対化された存在となり、聖職者の権威も民族の自立も制限され、信仰心の形骸化が進んだ時代です。神が満を持して、その独り子を賜った時代背景を、わたしたちは理解しなければなりません。

人の子として育てられ、密かにこの世に出現した神の子キリストの許を最初に訪れたのは、知性と社会的地位に優れたユダヤ人の教師で議員を兼ねたニコデモという人物です。不信仰のユダヤの社会を掻いぐって人知れず面会を求めて来た彼は、「徴」を見て神とイエスとの密接な関係を直観的に察知したことを告げます。

この告白に対しイエスは褒めて遣わすこともなく、神が求める正しい人間論をもって返答します。

人は、水と霊とによって、新しく生まれなければ、神の国を見ることも、入ることもできない。

これは、イエスの目の前に立ちすくむニコデモが、今、神の国の玄関口にいるわけでも何でもないことを教えています。「狭き門」はここに位置しているわけではないと。

ただ、キリストであり神の独り子であるイエスを世に賜った父なる神の愛は、間違いなくニコデモにも注がれていることは保証します。年老いて、もういちど、母親の胎内から生まれ直す必要はないのだと。

十字架上で命を落としたイエス・キリストの御体を、当局の取締を恐れずに、丁重に墓に葬ったのはこの人でした。

説教 《王(領主)の役人なれど》

ヘロデ大王の、4人目の妻のマルタケ(サマリア人)の次男として生まれたヘロデ・アンティパス(BC20?-AD40?)は大王の死後、分割領主としてガリラヤとペレアを支配しました(註:BC4-AD39)。イエスの地上の生涯は、ほぼこの領主の下におかれましたが、洗礼者のヨハネの殺害、さらにイエスの命を付け狙っていたのもこの領主です。イエスは彼のことを、「あの狐」と忌み嫌いました。

エルサレムから、彼の領土のガリラヤのカナに戻ったイエスの許を訪ねて来たのはこの領主の部下の役人です。彼の息子が高熱を出し、危篤状態にあるとのことでした。自宅はガリラヤ湖畔の町カファルナウムにありイエスにそこまで往診してくれとの依頼です。直線距離でも20Km以上はあります。とは言え、そこ(カファルナウム)にはイエスの職場があり、現住所もそこでした。しかし、今はカナの町にいて、取込み中です。無理を承知で遠方まで下って来てくれとは、領主の役人ならではの、半ば相手を見下した態度です。彼の上司の領主が洗礼者ヨハネを弄んだあげく、死に至らしめたという情報は、ガリラヤ全土に広まることでしょう。

イエスは役人に語りかけます、「あなたがたは徴とか、奇跡とかを見なければ信用しない」。これは、あきらかに、残忍な領主の仲間に対する疑念を表明した言葉です。

役人は態度を改めて、襟を正し丁寧な言葉をもってイエスに懇願しました。「主よ、わたしの子供が死ぬ前に、下ってきてください」。彼は今度は、領主の部下の役人としてではなく、一人の悲壮な父親として、心をこめて語ったのでした。

イエスはこの時、困難な依頼人であった一人の父親を、他の人々と同様に、差別なしに受け容れます。さらに、世を愛される神の独り子に相應しく愛をもって明言しました、「行きなさい。あなたの息子は生きている」。その言葉で遠方のカファルナウムにいた彼の息子の容態は持直し高熱は下がりました。

こうして、役人もその家族も、こぞってイエスを信じるに至ります。殺人領主の部下の役人のままで。

その後も歴史上の為政者は長期に亘り、真の神とその信仰者を弾圧することになるでしょう。しかし、この世の役人の中からも、一人、また一人とキリスト教徒が生まれ育つ時に、ローマ帝国も、やがてはキリスト教国となっていくであります。300年の時を経て。